

平成22年度 徳島県田園環境検討委員会

I 日 時
委員会 平成23年3月22日（火）13時30分から15時30分

II 場 所
徳島県庁10階特別大会議室，徳島市川内町

III 出席者

【委員】 植田美恵子，大栗邦子，角野康郎，上月康則，藤原俊信，宮本正，
山田量崇，渡辺雅子（アイウエオ順敬称略，10名中8名出席）
【 県 】 農村農地政策局長，農村振興課長，農業基盤整備課長他

IV 委員会次第

- 1 開 会
- 2 開会の挨拶
- 3 議 事
(1) 農業農村整備事業の環境配慮実績について
(2) 現地視察：経営体育成基盤整備事業(排水対策型) 竹須賀地区
- 4 閉会の挨拶
- 5 閉 会

<配付資料>

- 資料1 会議次第
- 資料2 配席図
- 資料3 委員名簿，徳島県田園環境検討委員会等設置要綱
- 資料4 環境配慮実績
- 資料5 現地視察資料

V 会議録（要旨）

- 1 開 会
- 2 開会の挨拶：農村農地政策局長
- 3 議 事
(1) 農業農村整備事業の環境配慮実績について，県担当者より説明。

【委員】

魚巣ブロックにはいろいろな形のものがあるが，その効果はどのように報告されるのか。

【県】

魚巣ブロックについては，施工してまだ日が経っていないこともあり，未だモニタリングの調査ができていない。その効果はこれから調べていきたい。

【委員】

魚巣ブロックについて一般的に専門家からどのような助言をもらっているのか。

【県】

例えば竹須賀地区では，平成17年度のこの委員会で計画の審査時に，魚類に配慮したもの，例えばフトン籠のようなものと，御指導をいただいた。それについて，将来維持管理していく市町村や地元と協議して，この区域は魚巣ブロックが相応しいだろうと採用した。

【委員】

当初この委員会は，新規事業を起こすときに調査をやるといった形であった。今，公共事業が非常に厳しい状況の中で，こういった施工実績をどのように積み重ねていくか，それを次の時にどのように活かしていくか。それが非常に大事になってくる。できるだけ施工実績を議論して，こういうところで効果があったからこういうところでまた使おうとなって欲しい。

【委員】

これから実績は大切。次の事業に活かしていくため，議論する必要がある。

【委員】

ミズマツバ，スズメノハコベは一年生，コカモメヅルは多年生それぞれにどのような環境配慮がうまくいったか報告が必要ではないか。植物の配慮の場合でも，その地区や配慮対象によって適切な方法があるはず。多年生と一年生ではそれぞれのやり方がある。工事の後で調査をしてどのやり方がよいかノウハウを少しずつ積み上げていく必要がある。

【委員】

「えんた」というのは昔で言う赤線というのとはまた違うのか。この地域だけにあるもので、カワバタモロコはそういう状態だから生息しているということなのか。

【県】

「えんた」は赤線ではない。水路の中に土揚場を作っているということ。それと、「えんた」があるから希少な魚がいるかというのは別だと思われる。ただ「えんた」というのは通常半分に浸かったような状況にあり、浅い部分とえんた以外の深い部分それぞれを住処にする魚があると聞いているので、希少な魚類だけでなく魚類全般にそういう環境配慮が自然になされるような状況になっていた。

【委員】

「えんた」この地域だけにあるものか。

【県】

「えんた」は、全国でもこの地区でしか見られない珍しいものであると聞いている。

【委員】

このカワバタモロコの保全についてうまくいくかどうかは大変注目される。増殖がうまくいっているということと、現地では確認できないということのギャップについて、現地でカワバタモロコが確認できない状況には何か理由があるのであろうから、そういうところへ一方で増やして戻してもちゃんと生き残っていくのかが気になるが、その辺りの検討はされているのか。

【県】

元の採取した場所に返して良いものか、これから専門家の方とも十分に相談して指導を受けながら対応していきたい。ただ、元の採取した場所では土の部分が多くつかった水路など環境にも十分配慮した対応をしている。何とか返せるよう、専門家の指導を受けながら考えていきたいと思う。

【委員】

現地で確認できないのは生活排水の流入や、水が淀み酸素がない環境の中で、カワバタモロコの住めない状況になっているということだと思う。だから具体的に地域の人と一緒に保護していくとか今から何か対策していただきたい。県だけの問題ではなくて地域の人との問題でもあると思いますが進めていただきたい。

【委員】

カワバタモロコを取り巻く環境も含めてということ。ぜひ進めていただきたい。

【委員】

「カワバタモロコのれんこん」という形で、環境に配慮した環境の中で作られたれんこんと、地元で売り出しされている方もあるよう。ぜひ田園環境検討委員会から始まった動きがそういうところにつながって、それが成功したという事例を作っていただきたい。

【委員】

メダカとカワバタモロコでは住む環境が違うのか。レンコン畑にメダカはたくさんいる。資料を読んだらカワバタモロコは見つかっていないとあるが、住む環境的に違いがあるのか。

【委員】

メダカよりちょっと環境的に要件は厳しい。

【委員】

メダカは水温がグッと上がっても大丈夫だし、そういう意味ではカワバタモロコの方が環境要求が厳しい。

【委員】

今年度はこのような環境配慮が行われたと言うことで、各委員には今後もこの経緯を見守って欲しい、また県には今後とも引き続き只今出てきた意見を参考にしてもらって環境配慮に努めて欲しい。

【県】

先程の事後評価関係も絡めて、魚巣ブロックによる魚の生育環境保全の効果について事後の調査をやって、次に反映させていきたい。またカワバタモロコについても、この工事をやったことでどういう改良がなされたかなど調査をやって明らかにしていきたい。今後とも注意して見てもらうよう、よろしくお願ひしたい。

(2) 現地視察：経営体育成基盤整備事業(排水対策型) 竹須賀地区
竹須賀地区の環境配慮対策等について、県担当者より説明。

【委員】

この水路のモニタリング調査は予定しているか。

【県】

まだ予定は立てていないが、適宜、環境配慮の効果を見ていきたい。

【委員】

どうして底を全て土にしなかったのか。

【県】

地元との協議により、水路の管理をしやすくするため。また、道路沿いに土を残すと草が生えて走行中の車の視界を妨げ、交通安全上危険との判断から。

【委員】

隣の畑から伸びているのは排水用の水路か。魚道としても使えるのか。

【県】

排水用の水路である。水面と畑の高低差が大きいため魚道としての効果はない。

【委員】

ブロックに草が生えているがこれは何か。

【県】

ブロックに元々あったこの辺りの土を詰めることで川辺の植生を少しでも残そうという配慮。

4 閉会の挨拶：農村振興課長

5 閉 会